

三歳の頃、私は家族と衣島の資料館に行き、たこが、あります。たこさんの折鶴、原爆ドーム、資料館と色々なところに行きました。私の記憶に残っているのは、ただただ怖かったというだけで。

私の家には「ひろしまのロカ」という本と「だしのゲン」というマンガがあります。このマンガは三年生の時に読み始めてから、何十回も読み返している程のマンガです。初めて読んだ時は、絵があまりにも衝撃的で、今の日本

とかけ離れすぎていることに驚きました。皮膚がたれ下がっていたり、腸がとび出たりしながら歩いていたり人達、うじ虫が体中に湧いている人、目がとび出さずしていて穴が開いている人。想像できない、想像したくないものばかりが描かれていました。描かれています。戦争は、私が考えていた戦争とはほど遠く、あまりにも残酷で一人一人のなんとしてでも生きていたいという気持ちですごく伝わって来ました。また、そんな中にも自分のまわり

の人まで救おうとする人、自分以外の人をおいて逃げる人、人の命を軽い気持ちで扱う人などたくさんの方がいました。そうしてどんなまわりの人が亡くなった。といってしまうのか、頑張った明るく生きていこうとする主人公に魅力を感じ、何度も読み返しました。昨年、学校で歴史を学んだうえ、本を読んだため、少しでも戦争の広島に対する知識や考えが持てた私なら、ただ怖かっただけの昔とは違った広島が見えると思い、今回応募しました。

た。最も衝撃を受けたのは八千人もの私と同じ年の子とも達が一瞬にして亡くなった。しまったということびす。当時の日本は紙や木で家が作られていたことから大量の焼夷弾を落とされてしまいました。ですが広島は果にワット川が通った。いって水が多いことから焼夷弾を落とすのを避け、後回しにされていきました。その時、原子爆弾が落ちてきました。投下する場所の候補として広島以外にも小倉や長崎、新潟などがあがっていました。原子爆弾

は平野の方が被害が大きく出やすい構造だ。たため、その威力を確かめるべく平野である広島が選ばれました。そんな中、広島に住民はいつ焼夷弾が落とされても火事や被害が広がらないようにと建物疎開を始めていました。建物疎開とは、焼夷弾が落とされても火事で被害が広がらないよう、子どもと大人で家を少しずつ壊していくことです。8月6日は中学一年生の子ども達が当番だったので、朝八時から町の大人達と作業に取り掛かり始めた

その数分後、原子爆弾が投下され、一瞬にして八千人もの子ども達が亡くなってしまったと聞きました。また、原爆投下により両親を亡くしてしまっ、孤児達が、2千人26千人もいましたが9月の枕崎台風で亡くなっ、てしまいました。実は長崎に落とされた核は広島に落とされた核の1.5倍もの威力があったと言います。が、広島が大々的にとられている理由としては、広島が平野であったため被害が大きかったという理由の他に、たくさん

小さい命が奪われたところにあると言います。資料館ではドロドロになったまま固まっていたガラスや人の影が地面に焼きついていた写真を見ました。実際は、影が焼きついていた訳ではなく、その場所にいた人が被爆してしまい、その際に原子爆弾の熱線がその周りの地面の表面を白く焼いたことで影の部分だけが元の色で残っているということがわかりました。

今の世界では戦争をしている国もあれば、今後始まってしまいう国もあるかもしれません。

戦争放棄を掲げている日本でも戦争に巻き込まれるかもしれません。戦争が始ま、た時に犠牲になるのはやはり住民の人達です。戦後七十年以上経った今でも苦しんでいる人々がいまいます。このような戦争は二度と起こしてはいけないうと強く感じました。今の私には、小さな揉めごとが戦争にまで発展する理由が分かりません。そこで、国と国との関係について学び、戦争が起きる理由、それを基に戦争を無くすために私にできることはなにかを考えるていきたいと思っています。